

第 68 回全国植樹祭富山県準備委員会第 1 回会議 議事録(要旨)

(質疑応答)

日 時 平成 25 年 9 月 5 日 (木) 9:30~10:30

場 所 富山県民会館 401 号室

○基本構想について

(委員)

・近年の開催予定地は、石川、新潟、長野と富山近辺が続く。それぞれ海や山もあり、違いを出しにくい面があるが、富山らしい理念がほしい。

(委員)

・全国植樹祭は長年にわたって開催されている行事で定着しており、考え方、形はほぼ確立しており、改めて理念と言われても難しい面がある。

(委員)

・全国では、最近では広葉樹を植える例が多い。スギは花粉を出すことから避けられている。無花粉スギを大々的に宣伝するため、スギを植えることを考えてほしい。

・会場のベンチにはぜひ県産材を使ってほしい。

(委員長)

・木材を使って、新しい産業を育てていくことが必要。いかに森林を産業の発展、人の生活に活かしていくのかをテーマのひとつにしていく必要がある。

・実行委員会の段階で、大会準備と並行して、林業の再生、新しい活用といった内容で、産業界や有識者のシンポジウム、講演会などアピールする場を開催すればどうか。

○開催候補地について

(委員長)

・事前調査チームで選んだ 4 箇所の中に、前回開催地だったというような問題はないのか。

(事務局)

・資料 (No4) の調査項目で説明したとおり、事前調査チームでは、できるだけ既存の施設を使うことを前提に、施設の規模が要件を満たしているかどうかを基準に選んだ。

・当準備委員会では美しい景観や、森に囲まれているかといった周辺環境なども検討していただきたい。その中には海づくり大会や全国植樹祭の前回開催地などといったバランスも考慮していただきたいと考えている。

(委員長)

・6000 名を 1 箇所に集めるために、例えば適正な交通路の整備工事とかは行うのか。

(事務局)

・植樹祭のために大々的に整備を行うということは考えていない。

(委員)

・雨の場合はどうするのか。近くにそういった場合の会場が必要なのか。

(事務局)

・2000 人程度収容できる会場が必要であり、いずれの会場も大丈夫である。

(委員)

・県外招待客が 1500 名程度であれば、近くにあるのとないのでは違ってくるので考慮したほうがよい。

(事務局)

・次回現地調査時に調べて情報を提供する。

(委員)

・植樹会場との距離はどうか。

(事務局)

・砺波だけはバスでの移動が必要であるが、他の 3 会場は 700~800 m 以内である。